

## ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)実施要領(試行)

### 1. ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)

#### 1-1 概要

ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)とは、舗装工(修繕工)の施工プロセスにおいて、以下に示すICT施工技術を全面的に活用する工事である。

次の①～⑤においてICT施工技術を活用することをICT活用施工というほか、舗装工(修繕工)におけるICT活用施工を「ICT舗装工(修繕工)」という。

- ① 3次元起工測量
- ② 3次元設計データ作成
- ③ ICT建設機械による施工
- ④ 3次元出来形管理等の施工管理
- ⑤ 3次元データの納品

なお、基本的には①～⑤の全ての段階でICT施工技術を活用するものとするが、一部でICT施工技術を活用する場合も可とする。

「一部でICT施工技術を活用する場合」とは、①②③④のいずれかを含むものをいう。

#### 1-2 ICT施工技術の具体的内容

ICT施工技術の具体的内容については、次の①～⑤及び表-1「ICT活用工事と適用工種」によるものとする。

##### ① 3次元起工測量

起工測量において、3次元測量データを取得するため、下記1)～4)から選択(複数も可)して測量を行うものとする。

起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変換点の計測による測量を選択できるものとする。

- 1) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量
- 2) トータルステーション(ノンプリズム方式)を用いた起工測量
- 3) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
- 4) その他の3次元計測技術を用いた起工測量

##### ② 3次元設計データ作成

1-2①で計測した測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、切削計画を作成する。また、3次元出来形管理や3次元を活用した位置出し、丁張り設置等を行う場合は3次元設計データを作成する。

##### ③ ICT建設機械による施工

1-2②で作成した3次元設計データを用い、下記1)により施工を実施する。

- 1) ICT路面切削機

##### ④ 3次元出来形管理等の施工管理

1-2③による工事の施工管理において、下記1)～5)から選択(複数も可)して、出来形管理を行うものとする。

- 1) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- 2) トータルステーション(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理
- 3) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- 4) 施工履歴データを用いた出来形管理

5) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理

⑤ 3次元データの納品

1-2④による3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。

《表-1 ICT活用工事と適用工種》

段階	技術名	対象作業	建設機械	適用工種		監督・検査 施工管理	備考
				新設	修繕		
3次元起工測量 ／3次元出来形管理等の 施工管理	地上型レーザースキャナーによる 起工測量／出来形管理技術(舗装工事)	測量 出来形計測 出来形管理	-	-	○	①、②、③	
	トータルステーション(ノンプリズム方式)に よる起工測量／出来形管理技術(舗装工 事)	測量 出来形計測 出来形管理	-	-	○	④、⑤	
	地上移動体搭載型レーザースキャナーに よる起工測量／出来形管理技術(舗装工 事)	測量 出来形計測 出来形管理	-	-	○	⑥、⑦	
	施工履歴データを用いた出来形管理技術 (路面切削工)	出来形計測 出来形管理	-	-	△	⑧、⑨	
ICT建設機械による施工		路面切削	路面切削機	-	○		

【凡例】 ○:適用可能、△:一部適用可能、-:適用外

【要領一覧】

- ①地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)
- ②地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領(舗装工事編)(案)
- ③地上レーザースキャナーを用いた公共測量マニュアル(案)- 国土地理院
- ④トータルステーション(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)
- ⑤トータルステーション(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理の監督・検査要領(舗装工事編)(案)
- ⑥地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)
- ⑦地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領(舗装工事編)(案)
- ⑧施工履歴データを用いた出来形管理要領(路面切削工編)(案)
- ⑨施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領(路面切削工編)(案)

### 1-3 ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)の対象工事

ICT活用工事の対象工事(発注工種)は「舗装工事」及び「維持修繕工事」を原則とし、下記(1)(2)に該当する工事とする。

#### (1) 対象工種・種別

ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)の対象は、次の工種とする。

《表-2 ICT活用工事の対象工種種別》

工事区分	工種	種別
・道路維持 ・道路修繕	舗装工	・路面切削工 ・切削オーバーレイ工

#### (2) 適用対象外

従来施工において、舗装工の土木工事施工管理基準(出来形管理基準及び規格値)を適用しない工事は適用対象外とする。

## 2. ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)の実施方法

### 2-1 実施方式

「手上げ方式」(施工者からの提案)を基本とし、施工者希望型(A型、B型)により実施する。施工者希望型とは、契約後、施工者からの提案・協議を経てICT活用施工を実施するものをいう。

(1) 施工者希望A型 ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)の候補工事であることを明示して入札を行う。舗装修繕面積が2,000m<sup>2</sup>以上を目安として、発注者が設定した工事に適用する。

(2) 施工者希望B型 舗装修繕面積が2,000m<sup>2</sup>未満を目安として、入札後に、ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)の候補とする旨通知する。

### 2-2 施工者希望A型の発注における入札公告等

入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、別添のとおりとする。

別添 【入札公告】記載例、【特記仕様書】記載例

### 2-3 施工者希望B型における通知方法

通知文書の記載例については、別添のとおりとする。

別添 【通知文書】記載例、【特記仕様書】記載例

## 3. ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)実施の推進のための措置

### 3-1 総合評価落札方式における加点措置 なし

### 3-2 工事成績評価における措置

ICT活用施工を実施した場合、創意工夫における【施工】「16. ICT(情報通信技術)を活用した情報化施工を取り入れた工事」において評価するものとする。

ICT活用施工を取り止めた工事については、加点対象としない。

#### 4. ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)の導入における留意点

受注者が円滑にICT活用施工を導入し、ICT施工技術を活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。

##### 4-1 施工管理、監督・検査の対応

ICT活用施工を実施するにあたって、別途発出されている施工管理要領、監督検査要領(表1「ICT活用工事と適用工種【要領一覧】」)に則り、監督・検査を実施するものとする。

監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。

##### 4-2 3次元設計データ等の貸与

(1) ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)の導入初期段階においては、従来基準による2次元の設計データにより発注することになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「3次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。

(2) 発注者は、詳細設計においてICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)に必要な3次元設計データを作成した場合は、受注者に貸与するほか、ICT活用施工を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、積極的に受注者に貸与するものとする。

なお、貸与する3次元設計データに3次元測量データ(グラウンドデータ)を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「貸与する3次元設計データと3次元起工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事に変更計上するものとする。

##### 4-3 工事費の積算

発注者は、発注に際して建設工事積算基準(従来基準)に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案によりICT活用施工を実施する場合、別紙-26「ICT活用工事(舗装工(修繕工))積算要領」に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。また、「3次元起工測量経費」及び「3次元設計データ作成経費」については、見積り提出を求め(自社で行う場合も含む)、設計変更するものとする。

##### 4-4 ICT監督・検査体制の構築

ICT活用施工の監督検査を適切に行うことを目的に、研修等でのICT施工技術の習得を図るなど、ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。

##### 4-5 現場見学会・講習会の実施

ICT活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。

また、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。

## 5. ICT活用工事に関する調査等

ICT活用工事の発注見通し、取り組み状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。

### 5-1 発注見通しの公表

ICT活用工事の候補として発注の見込める工事について、公共工事の発注見通しの調査において、「ICT候補工事」欄に○を記載し、土木総務課へ提出するものとする。

なお、活用を見込める工事とは、2-1で定める施工者希望A型をいう。

### 5-2 ICT活用計画書の提出

受注者は、契約後、ICT施工技術の一部活用も含め、ICT活用施工を行う希望がある場合、別紙「ICT活用計画書」を監督職員へ提出するものとする。

監督職員は、計画書（添付図面を含む）を土木部技術管理課へ提出し、技術管理課は工事名、業者名及びICT発注方式を県ホームページで公開するものとする。

### 5-3 施工合理化調査

施工合理化調査を実施する。なお、内容はその都度、別途指示する。

## 6. ICT活用工事（舗装工（修繕工））（島根県版）の活用効果等に関する調査（別途指示）

### 6-1 対象工事の選定

調査名	目的	対象工事	対象者
ICT活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	ICT活用施工を行った、全ての工事	受注者

### 6-2 アンケート調査等の調査票の回収について

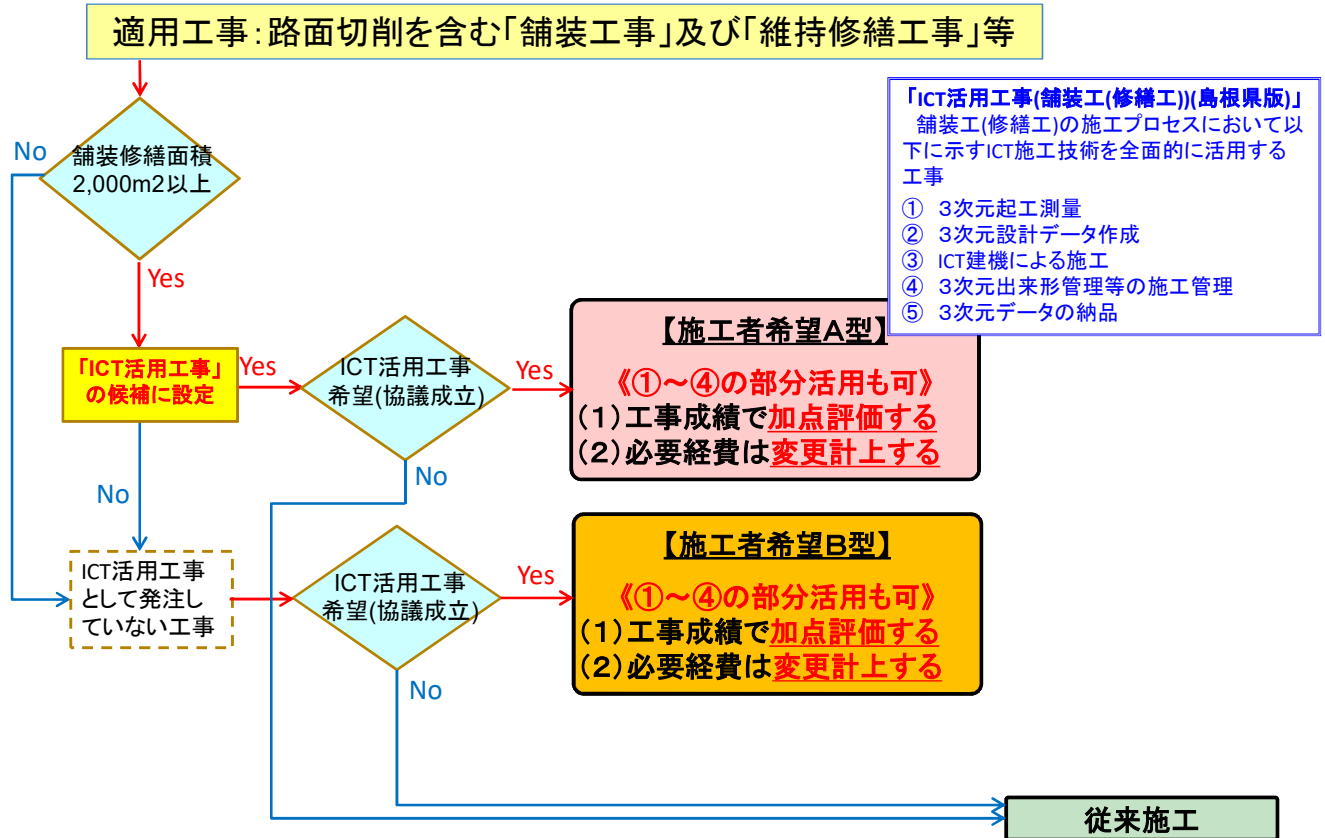
受注者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出するものとする。

監督職員は、工事完了後直ちに調査票を土木部技術管理課へ提出するものとする。

## 附 則

この要領は、令和2年9月30日から施行する。

# ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)の実施方針



## ICT(舗装工(修繕工))に関する基準類一覧

工種	分類	基準類名称	改訂 / 新設	概要	本文参照先
ICT舗装工(修繕工)	測量・調査・設計	1. 地上レーザースキャナを用いた公共測量マニュアル(案)	H30改定	・地上レーザースキャナによる公共測量に対応	<a href="https://psgs2.gsi.go.jp/koukyou/public/tls/index.html">https://psgs2.gsi.go.jp/koukyou/public/tls/index.html</a>
		2. 3次元設計データ交換標準(同運用ガイドラインを含む)	H31改定	・道路事業、河川事業の設計及び工事において、i-ConstructionやCIMで必要となる交換すべき3次元設計データの形式を定めた仕様書	<a href="http://www.nilim.go.jp/lab/qbg/bunya/cals/des.html">http://www.nilim.go.jp/lab/qbg/bunya/cals/des.html</a>
	ICT舗装工(修繕工)	3. 地上型レーザースキャナを用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)	H31改定	・舗装工事における地上型レーザースキャナを用いた出来形管理手法を定めたもの	<a href="http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000031.html">http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000031.html</a>
			R2改訂	・精度確認試験の有効期限について、6ヶ月→12ヶ月に延長	
		4. 地上型レーザースキャナを用いた出来形管理の監督・検査要領(舗装工事編)(案)	H30改定	・舗装工事における地上型レーザースキャナを用いた出来形管理の監督・検査手法を定めたもの	<a href="http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000031.html">http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000031.html</a>
			R2改訂	・精度確認試験の有効期限について、6ヶ月→12ヶ月に延長	
		5. TS等光波方式を用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)	H31改定	・舗装工事におけるトータルステーション等光波方式を用いた出来形管理手法を定めたもの	<a href="http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000031.html">http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000031.html</a>
		6. TS等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領(舗装工事編)(案)	H31改定	・舗装工事におけるトータルステーション等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査手法を定めたもの	<a href="http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000031.html">http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000031.html</a>
		7. TS(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)	H30改定	・舗装工事におけるTS(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理の手法を定めたもの	<a href="http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000031.html">http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000031.html</a>
			R2改訂	・精度確認試験の有効期限について、6ヶ月→12ヶ月に延長	
		8. TS(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理の監督・検査要領(舗装工事編)(案)	H30改定	・舗装工事におけるTS(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理の監督・検査の手法を定めたもの	<a href="http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000031.html">http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000031.html</a>
			R2改訂	・精度確認試験の有効期限について、6ヶ月→12ヶ月に延長	
9. 地上移動体搭載型レーザースキャナを用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)	H31改定	・舗装工事における地上移動体搭載型レーザースキャナを用いた出来形管理の手法を定めたもの	<a href="http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000031.html">http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000031.html</a>		
	R2改訂	・精度確認試験の有効期限について、6ヶ月→12ヶ月に延長 ・地上移動体搭載型LSが複数の測定機器で構成されており、各種証明書及びメーカー作動点検等の記録がない場合、現場ごとに実施する精度確認試験等の記録で確認が可能な旨追記 ・重機搭載型LSに関する精度確認方法(出来形計測実施前に1日1回現場内の任意の場所において検証点を用いた精度確認を実施)及び機器構成等追記			
10. 地上移動体搭載型レーザースキャナを用いた出来形管理の監督・検査要領(舗装工事編)(案)	H31改定	・舗装工事における地上移動体搭載型レーザースキャナを用いた出来形管理の監督・検査手法を定めたもの	<a href="http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000031.html">http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000031.html</a>		
	R2改訂	・精度確認試験の有効期限について、6ヶ月→12ヶ月に延長 ・バックホウ搭載レーザースキャナ計測システムに関する精度確認試験結果報告書の記載例追記			
11. 施工履歴データを用いた出来形管理要領(路面切削工編)(案)	R2新設	・路面切削工事における施工履歴データを用いた出来形管理の手法を定めたもの	<a href="http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000031.html">http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000031.html</a>		
12. 施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領(路面切削工編)(案)	R2新設	・路面切削工事における施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査手法を定めたもの	<a href="http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000031.html">http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000031.html</a>		

(施工者希望A型)

**【入札公告】記載例**

(記載例)

**『序文』に以下を追記する。**

- ・ I C T活用工事（舗装工（修繕工））（島根県版）の候補工事（… その他（番号）を参照）

**『… その他』に以下を追記する。**

（番号）受注者は、I C T活用施工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合にI C T活用施工を行うことができる。

本工事におけるI C T活用施工は、舗装工（修繕工）において、次の①～⑤の全ての段階でI C T施工技術を活用するものとするが、一部でI C T施工技術を活用する場合も可とする。

「一部でI C T施工技術を活用する場合」とは、①②③④のいずれかを含むものをいう。

- ① 3次元起工測量
- ② 3次元設計データ作成
- ③ I C T建設機械による施工
- ④ 3次元出来形管理等の施工管理
- ⑤ 3次元データの納品

なお、I C Tの活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。



ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)に関する特記仕様書

第1条 ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)について

1. ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)

本工事は、ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)の候補工事である。

2. 定義

(1) ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)とは、建設生産プロセスの下記段階において、ICTを全面的に活用する工事である。また、次の①～⑤においてICT施工技術を活用することをICT活用施工という。

対象は、路面切削を含む「舗装工事」及び「維持修繕工事」とする。

- ① 3次元起工測量
- ② 3次元設計データ作成
- ③ ICT建設機械による施工
- ④ 3次元出来形管理等の施工管理
- ⑤ 3次元データの納品

なお、基本的には①～⑤の全ての段階でICT施工技術を活用するものとするが、一部でICT施工技術を活用する場合も可とする。

「一部でICT施工技術を活用する場合」とは、①②③④のいずれかを含むものをいう。

3. 受注者は、ICT活用施工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出までにICT活用計画書を監督職員へ提出し、その内容がICT活用施工として適当と認められる場合に下記4～9によりICT活用施工を行う。

4. 原則、舗装工(修繕工)について施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容及び対象範囲を監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。

5. ICTを用い、以下の施工を実施する。

① 3次元起工測量

受注者は、3次元測量データを取得するため、下記1)～4)から選択(複数も可)して測量を行うものとする。

起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択できるものとする。

- 1) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量
- 2) トータルステーション(ノンプリズム方式)を用いた起工測量
- 3) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
- 4) その他の3次元計測技術を用いた起工測量

② 3次元設計データ作成

受注者は、設計図書や5.①で計測した測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、切削計画を作成する。また、3次元出来形管理や3次元を活用した位置出し、丁張り設置等を行う場合は3次元設計データを作成する。

③ ICT建設機械による施工

5.②で作成した3次元設計データを用い、下記1)により施工を実施する。

- 1) ICT路面切削機

④ 3次元出来形管理等の施工管理

5. ③による工事の施工管理において、下記1)～5)から選択(複数も可)して、出来形管理を行うものとする。

- 1) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- 2) トータルステーション(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理
- 3) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- 4) 施工履歴データを用いた出来形管理
- 5) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理

⑤ 3次元データの納品

5. ④により確認された3次元施工管理データを、工事完成図書として納品する。

6. 上記5. ①～⑤の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要なICT活用施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。

発注者は、3次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT活用施工を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。

7. 上記5. ①～⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。
8. 土木工事施工管理基準(案)に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。
9. 受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。
10. 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。

## 第2条 ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)における適用(用語の定義)について

### 1. 図面

図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ(以下「3次元データ」という。)等をいう。

なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。

## 第3条 ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)の費用について

1. 受注者が、契約後、施工計画書の提出までに発注者へ提案・協議を行い、ICT活用の具体的な工事内容及び対象範囲について協議が整った場合、ICT活用施工を実施する項目については、設計変更の対象とし、「ICT活用工事(舗装工(修繕工))積算要領」により計上することとする。

ただし、監督職員の指示に基づき、3次元起工測量を実施するとともに3次元設計データの作成を行った場合は、受注者は監督職員からの依頼に基づき、見積り書を提出する(自社で行う場合も含む)ものとする。

2. 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。

(別添)

(施工者希望B型)  
**【通知文書】 記載例**

〇〇第〇〇〇〇号  
令和 年 月 日

<受注業者> 様

島根県〇〇県土整備事務所長

ICT活用工事（舗装工（修繕工））（島根県版）の実施について

令和 年 月 日付けで契約した『<工事名>』については、ICT活用工事（舗装工（修繕工））（島根県版）の候補工事とします。

契約後、施工計画書の提出までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合にICT活用施工を行うことができるので、希望する場合は打合せ簿（協議）を提出してください。

本工事におけるICT活用施工は、舗装工（修繕工）において、下記の①～⑤の全ての段階でICT施工技術を活用するものとするが、一部でICT施工技術を活用する場合も可とする。

「一部でICT施工技術を活用する場合」とは、①②③④のいずれかを含むものをいう。

なお、ICTの活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書の通りです。

記

- 1 ICT施工技術
  - ① 3次元起工測量
  - ② 3次元設計データ作成
  - ③ ICT建設機械による施工
  - ④ 3次元出来形管理等の施工管理
  - ⑤ 3次元データの納品

ICT活用工事(舗装工)(島根県版)に関する特記仕様書

第1条 ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)について

1. ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)

本工事は、ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)の候補工事である。

2. 定義

(1) ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)とは、建設生産プロセスの下記段階において、ICTを全面的に活用する工事である。また、次の①～⑤においてICT施工技術を活用することをICT活用施工という。

対象は、路面切削を含む「舗装工事」及び「維持修繕工事」とする。

- ① 3次元起工測量
- ② 3次元設計データ作成
- ③ ICT建設機械による施工
- ④ 3次元出来形管理等の施工管理
- ⑤ 3次元データの納品

なお、基本的には①～⑤の全ての段階でICT施工技術を活用するものとするが、一部でICT施工技術を活用する場合も可とする。

「一部でICT施工技術を活用する場合」とは、①②③④のいずれかを含むものをいう。

3. 受注者は、ICT活用施工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出までにICT活用計画書を監督職員へ提出し、その内容がICT活用施工として適当と認められる場合に下記4～9によりICT活用施工を行う。

4. 原則、舗装工(修繕工)について施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容及び対象範囲を監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。

5. ICTを用い、以下の施工を実施する。

① 3次元起工測量

受注者は、3次元測量データを取得するため、下記1)～4)から選択(複数可)して測量を行うものとする。

起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択できるものとする。

- 1) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量
- 2) トータルステーション(ノンプリズム方式)を用いた起工測量
- 3) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
- 4) その他の3次元計測技術を用いた起工測量

② 3次元設計データ作成

受注者は、設計図書や5. ①で計測した測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、切削計画を作成する。また、3次元出来形管理や3次元を活用した位置出し、丁張り設置等を行う場合は3次元設計データを作成する。

③ ICT建設機械による施工

5. ②で作成した3次元設計データを用い、下記1)により施工を実施する。

- 1) ICT路面切削機

- ④ 3次元出来形管理等の施工管理
5. ③による工事の施工管理において、下記1)～5)から選択(複数も可)して、出来形管理を行うものとする。
- 1) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理
  - 2) トータルステーション(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理
  - 3) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理
  - 4) 施工履歴データを用いた出来形管理
  - 5) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理
- ⑤ 3次元データの納品
5. ④により確認された3次元施工管理データを、工事完成図書として納品する。
6. 上記5. ①～⑤の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要なICT活用施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。
- 発注者は、3次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT活用施工を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。
7. 上記5. ①～⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。
8. 土木工事施工管理基準(案)に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。
9. 受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。
10. 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。

## 第2条 ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)における適用(用語の定義)について

### 1. 図面

図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ(以下「3次元データ」という。)等をいう。

なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。

## 第3条 ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)の費用について

1. 受注者が、契約後、施工計画書の提出までに発注者へ提案・協議を行い、ICT活用の具体的な工事内容及び対象範囲について協議が整った場合、ICT活用施工を実施する項目については、設計変更の対象とし、「ICT活用工事(舗装工(修繕工))積算要領」により計上することとする。

ただし、監督職員の指示に基づき、3次元起工測量を実施するとともに3次元設計データの作成を行った場合は、受注者は監督職員からの依頼に基づき、見積り書を提出する(自社で行う場合も含む)ものとする。

2. 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。

## ICT活用計画書(舗装工(修繕工))

(工事名: \_\_\_\_\_ )

会社名: \_\_\_\_\_

当該工事において活用する技術について、「採用技術番号」欄に該当建設生産プロセスの作業内容ごとに採用する技術番号を記載する。

また、建設生産プロセスの各段階において、ICT施工技術を活用する場合は、左端のチェック欄に「■」と記入する。

建設生産プロセスの段階	作業内容	採用する技術番号	技術番号・技術名
<input type="checkbox"/> ①3次元起工測量	/	/	1地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 2トータルステーション(ノンプリズム方式)を用いた起工測量 3地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 4その他の3次元計測技術を用いた起工測量
<input type="checkbox"/> ②3次元設計データ作成	/	/	※3次元出来形管理や位置出し、丁張り設置等に用いる3次元設計データの作成であり、ICT建設機械にのみ用いる3次元設計データは含まない。
<input type="checkbox"/> ③ICT建設機械による施工	<input type="checkbox"/> 路面切削工	/	ICT路面切削機
<input type="checkbox"/> ④3次元出来形管理等の施工管理	/	/	1地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 2トータルステーション(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理 3地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4施工履歴データを用いた出来形管理 5その他の3次元計測技術を用いた出来形管理
<input type="checkbox"/> ⑤3次元データの納品	/	/	

注1) ICT活用工事(舗装工(修繕工))(島根県版)の詳細については、特記仕様書によるものとする。

注2) 基本的には①～⑤の全ての段階においてICT施工技術を活用するものとするが、一部でICT施工技術を活用する場合も可とする。「一部でICT施工技術を活用する場合」とは、①②③④のいずれかを含むものをいう。

注3) 平面図、代表断面図、縦断図等に対象範囲概略を図示し、添付すること。